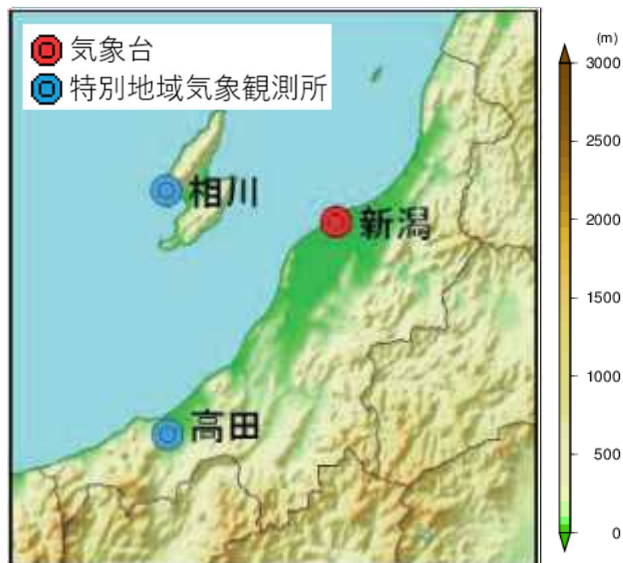


新潟県



新潟県の地勢

新潟県は本州の中央部よりやや北の日本海側に位置し、本州の部分(藩制時代の越後)と佐渡島及び粟島を含めてその県域としており、面積は12,584km²(全国第5位)である。

県の北西側は日本海に面し、北東側から南西側にかけては山形・福島・群馬・長野・富山の5県と接し、この地域は2,000m級の山を中心とした山岳地帯で、北から朝日山地、飯豊山地、越後山脈、三国山脈、上信越連峰(妙高山など)、飛騨山脈(北アルプス)などで県境を造っている。

これらの山岳地帯を源とする多くの河川が県内を流れ日本海に注ぎ、特に信濃川、阿賀野川の二大河川が県の中央部を流れ、支流の中小河川も多い。県の北部や西部では山岳地帯から海岸までの距離が短いため、この地域を流れる川は比較的急流となっている。

信濃川及び阿賀野川流域には、全国2位の広さをもつ越後平野がある。その他の平坦な地として、平野や盆地があり、また山岳地帯、丘陵地帯の面積も大きい。

佐渡は北側に大佐渡山地、南側に小佐渡丘陵が北東から南西に平行に走り、その中間が国仲平野となっている。



新潟県の気候

新潟県の気候は典型的な日本海岸気候区に分類される。晩秋になると大陸から寒気が吹き出してしづれる。冬は冬型の気圧配置が多く現れ、大雪となる日もある。強い冬型の気圧配置になると海岸や平野部では吹雪となり、山沿いではしんと雪が降り積もり、家々を埋もらせる。住宅や商店の軒先を長く出した家々が連なる「^{がんぎ}雁木」(高田、長岡でみられる)は歩行者に配慮した雪国独特の風情と優しさを醸し出している。

夏は梅雨による雨の時期と梅雨明け後の晴天の季節となる。海が^な風ぎ※、夕日がとてもきれいな季節である。一方で、梅雨末期や梅雨が明けてからも災害をもたらすような大雨となることがある。太平洋高気圧の勢力が衰えたときに、高気圧の縁辺をまわる、暖かく湿った空気が西の海上から前線に向かって流れ込み、前線付近で積乱雲が発達して大雨となるもので、これまでも、昭和42年8月26日～29日の羽越豪雨、平成16年7月新潟・福島豪雨、平成23年7月新潟・福島豪雨により、甚大な被害が起きている。

※ ^な風ぎは、風が止んで波が穏やかになること。

地形データにはUSGS(アメリカ地質調査所)のGTOP030を利用した。